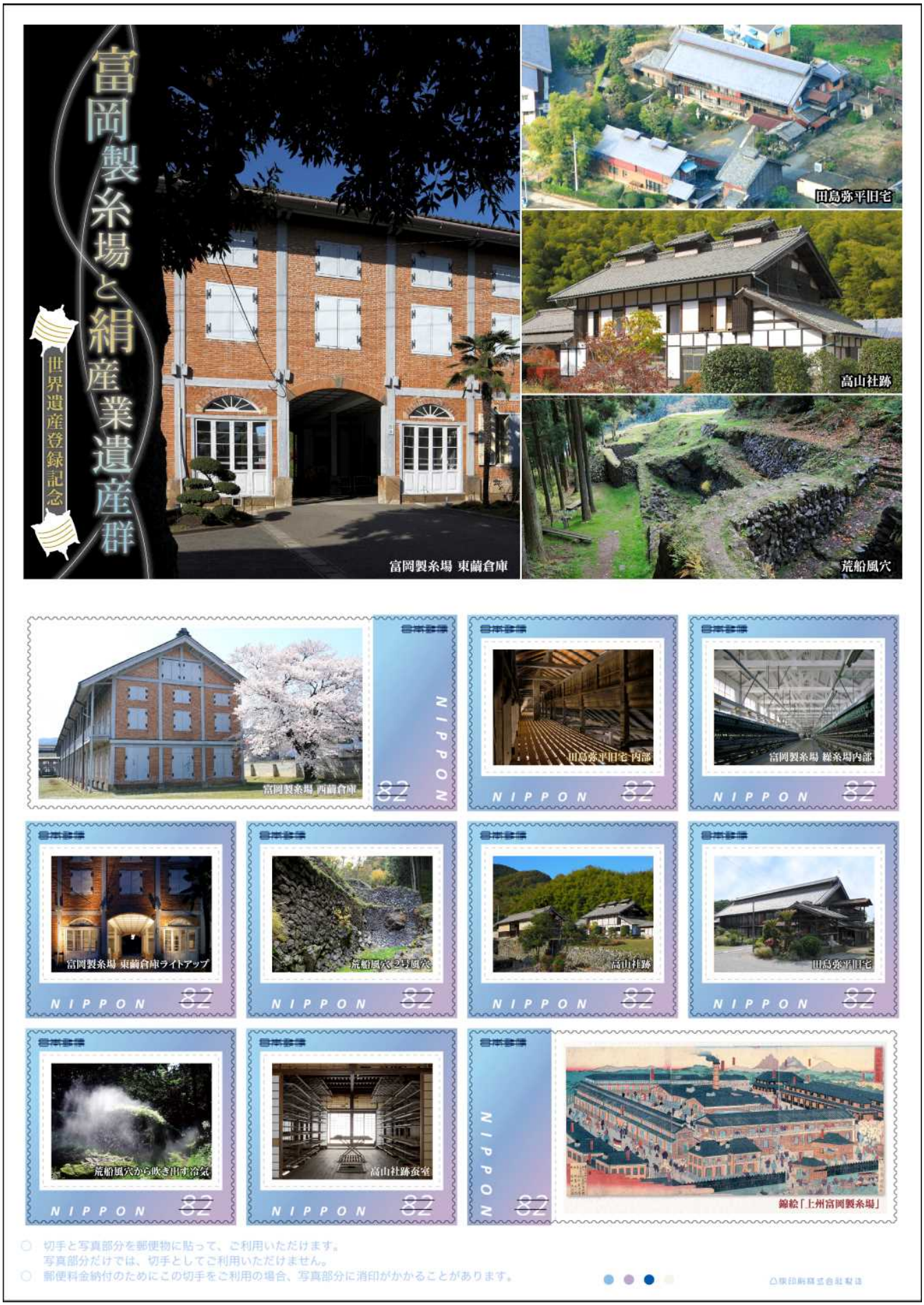
【切手デザイン】

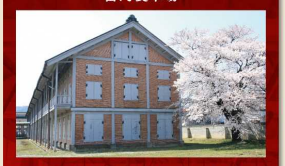

富岡製糸場と絹産業遺産群
世界遺産登録記念
富岡製糸場 東繭倉庫
田島弥平旧宅
高山社跡
荒船風穴
富岡製糸場 西繭倉庫
田島弥平旧宅 内部
富岡製糸場 繰糸場内部
富岡製糸場 東繭倉庫ライトアップ
荒船風穴 2号風穴
高山社跡
田島弥平旧宅
荒船風穴から吹き出す冷気
高山社跡蚕室
錦絵「上州富岡製糸場」
NIPPON
82
切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

【台紙表面】

【台紙中面】

富岡製糸場と絹産業遺産群

富岡製糸場



フランスの技術を導入した日本初の本格的製糸工場

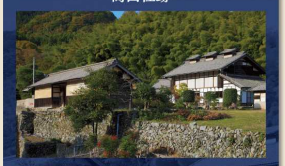
明治5年(1872)に明治政府が設立した官営の器械製糸場です。民営化(1893)後も一貫して製糸を行い、製糸技術開発の最先端であり続け、養蚕業と連携した蚕の優良品種の開発と普及も主導しました。和洋技術を混交した工場建築の代表であり、長さ100mを超える木骨レンガ造の繭倉庫や繰糸場など、主要な施設が創業当時のままほぼ完全に残されています。

田島弥平旧宅

瓦屋根に換気設備を取り付けた近代養蚕農家の原型

通風を重視した蚕の飼育法「清涼育」を大成した田島弥平が、文久3年(1863)に建てた住居兼蚕室です。
間口約25m、奥行約9mの瓦葺き総2階建てで、初めて屋根に換気用の越屋根が付けられました。この構造は、弥平が「清涼育」普及のために著した、「養蚕新論」、「続養蚕新論」によって各地に広まり、近代養蚕農家の原型になりました。

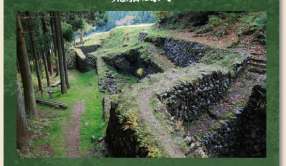
高山社跡



全国標準の近代養蚕法を開発した場、養蚕教育機関

明治16年(1883)、高山長五郎は、通風と温度管理を調和させた「清温育」という蚕の飼育法を確立しました。
翌年、この地に設立された養蚕教育機関高山社は、その技術を全国及び海外に広め、「清温育」は全国標準の養蚕法となりました。
明治24年(1891)に建てられた住居兼蚕室は「清温育」に最適な構造で、多くの実習生が学びました。

荒船風穴



自然の冷気を利用した日本最大規模の蚕種貯蔵施設

荒船風穴は、明治38年(1905)から大正3年(1914)に造られました。岩の隙間から、吹き出す冷風を利用した蚕の卵(蚕種)の貯蔵施設で、冷蔵技術を活かし、当時年1回だった養蚕を複数回可能にしました。3基の風穴があり、貯蔵能力は国内最大規模で、取引先は全国40道府県をはじめ朝鮮半島にも及びました。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産としての価値

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、高品質な生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の「国際交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産です。日本が開発した絹の大量生産技術は、生産量が限られ一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊かなものに変えました。富岡製糸場と3つの養蚕に関わる資産田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴は、そのことを今に伝える証なのです。

ギャラリー

横浜「工女勉強之図」

「養蚕新論」挿絵（田島弥平旧宅）

高山社跡写真

荒船風穴古写真